

生物多様性配慮ラベルによる付加価値の存在を確認（日本）

■ 背景 & 目的

ECOラベルなどの食品ラベルを用いて、生物多様性に関連する利益を市場メカニズムに統合することは、生物多様性の保全に重要な役割を果たしている。これまで生物多様性に関連する食品ラベルに対する消費者の購買意欲を調べる研究は数多くあるが、実際の市場における付加価値は不明であった。

本研究では、日本の小売店のデータを分析することにより、**生物多様性に配慮して生産されたことを示すラベル（生物多様性配慮ラベル）が、お米の価格に与える影響（価格プレミアム）を評価した。**

● 研究方法

小売店の米販売データにヘドニックアプローチを適用し、米価に及ぼす生物多様性配慮ラベルの影響について分析

【生物多様性配慮ラベルの定義】

生物多様性やその保全に対する情報や言及があるもの。認証等の有無は問わない※
(Treves & Jones 2010. . Front. Ecol. Environ. を参照)

※ “生き物マーク (MAFF, 2010)” よりも広義な定義であることに注意



本研究における生物多様性配慮ラベルの例

【結果】

- 生物多様性配慮ラベルは、米の価格を上昇させた
- **生物多様性配慮ラベルの付いた米は、付いていない米と比較して、23.8%の価格プレミアムが確認された**
- 生物多様性配慮ラベルの価格プレミアムは、農薬低減の価格プレミアムよりも高かった

